

(2) 国際協力プラン21・高知の概要

ア 策定の背景と目的(なぜ、今、国際協力か)

- (ア) 相互依存関係の深化
相互依存関係が強まった世界では一国だけの平和・繁栄はあり得ない。
- (イ) 地球的規模の問題への関与
人口、貧困、環境問題など地球的規模の課題に地域から関わる必要。
- (ウ) 地域からの国際協力(国際交流から協力へ)
お互いの地域の抱える課題等での協力(親善型交流から実質的協力へ)

イ 策定の経緯(位置づけ)

国際交流から国際協力への流れの中で、県民の参加による国際協力を推進するため、平成7年3月に策定した「高知県国際交流ビジョン」の五つの基本方針の一つである「地域に根ざした国際協力活動の推進」を補完し、高知の特性を活かした国際協力のあり方について具体的に記述し総合的な施策展開を図る。

ウ 意義と理念

- 国際社会の平和と繁栄への高知からの貢献と歴史認識
国レベルだけでなく地域と地域等多様なチャンネルからの国際協力による国際社会の平和と繁栄への貢献。特にアジア・太平洋地域への国際協力に際しては歴史認識が必要。
- 共存共栄の精神に立った対等なパートナーとしての国際協力
共生にとどまらず共栄を目指し、互いの独自性を尊重しながら対等なパートナーとして協力。
- 地域の独自性の再認識と地域活性化
高知のアイデンティティの再認識と異なった文化のふれあいによる地域の活性化へ。
- 県民のボランティア精神の高揚と女性の参加
国際協力活動への参加によるボランティア精神の涵養と女性参加への期待。
- 国際的な視野を持った職員の人材育成
国際協力事業への参加により国際感覚を身につけた職員の人材養成。
- 姉妹、友好関係の深化
姉妹・友好提携先との交流を実質的な協力関係へと深めていく。

エ 現状と課題(略)

オ 基本方針

- アジア・太平洋地域を中心とする国々への技術協力
高知と繋がり深いアジア・太平洋地域を中心とした国々への国際協力。
- 高知の特性を生かした国際協力
高知の得意とする農林水産業や地場産業などの分野での技術協力。
- 県民の参加による草の根からの国際協力
暖かい気候やホスピタリティあふれる県民性を生かした県民参加の国際協力。

カ 今後の施策展開

- (ア) 分野別の施策展開
 - 産業・技術分野
農林水産業等の分野での技術研修員の受入や専門家の派遣などの技術協力を、持続可能な

開発や循環型社会を念頭におきながら拡充発展させる。

●経済分野

アジア・太平洋地域を中心に経済交流を促進し、ヒトやモノ、技術、資本を通じて経済協力を進める。

●教育・研究分野

海外との幅広いネットワーク形成や研究技術者の集う技術拠点づくりのため、留学生の受入体制の充実や研究者等の招聘を促進する。

●国際人の育成分野

ボランティア・バンクや人材バンク、JET事業の活用などにより地球規模の視野を持った県民を育成していく。

●環境分野

省資源・循環型社会の形成を念頭に置き、自然循環型の「四万十川方式」による河川浄化など高知の特性を生かした環境協力を推進する。

●保健・福祉・医療分野

高齢化先進県としてのノウハウを活かした協力などに取り組む。

●文化・スポーツ分野

生活文化や芸術文化、文化遺産や伝統芸能の保存などでの協力、スポーツ指導者や選手の相互派遣による協力に取り組む。

(イ) 協力形態別の施策展開

●人づくりへの協力

海外技術研修員の受入、JICA・その他の研修生の受入、留学生の受入、専門家の派遣、日本語教育指導者の派遣等

●青年海外協力隊への参加

●共同研究の促進

●研究者等の招聘

●国際会議の開催

●人道的援助・緊急援助

(ウ) 内なる国際化に向けた施策展開

国籍条項の撤廃への取組みや外国人県民の行政への参加機会の提供、機会均等の実現などにより平等で開かれた地域社会づくりに取り組む。

キ 地域別の展開

高知県総合計画や高知県国際交流推進ビジョンに沿って、アジア・太平洋地域、特にこれまで交流や協力を続けてきた姉妹・友好提携先等に重点を置いた国際協力を進める。

- アジア地域 (中国安徽省、フィリピン・ベンゲット州)
- 中南米地域 (県人移住者を抱える中南米地域)
- その他の地域

ク 国際協力推進の役割分担(体制の整備)

- 県民の参加
- NGO等民間国際協力団体の役割
- 企業の役割への期待
- (財)高知県国際交流協会の役割と体制整備
- 県の役割と体制整備
- 市町村の役割
- 国や関係機関、他の地方自治体、NGOや企業との連携